

平成28年度青少年活動交流センター事業評価表

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針
					必要性 (30) ①必要性・優先度 ②県民のニーズ ③代替可能性	達成度 (30) ①数値目標 ②満足度 ③周知・理解	効率性 (30) ①費用対効果 ②計画どおりか ③負担はないか	その他 (10)		
(1) 活動	1	いわて親子・家庭フォーラム	青少年の健全な育成・成長に果たすべき第一義的な責任は、家庭・保護者であり、家庭における対話やふれあいが重要であることについて啓発するとともに、地域全体で子育てを行う機運を醸成する。	子育て、家庭教育、親子の対話等をテーマとする講演を中心とするセミナー及び親子や家族で楽しみ、ふれあいを深めるイベントを開催。 (1) 子ども・家庭・地域に関する交流セミナー ※西和賀町教育振興運動交流集会和併催 ・期日・会場：平成29年2月11日(土)紫波町情報交流館 ・参加者：育成指導者等 50名 ・内 容：分科会、全体会 ※アンケート結果別紙参照	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	C(10) ①:0 ②:0 ③:10 【実績】50名 【アンケート】開催趣旨と実施内容が異なっている(複数回答)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(186千円)		C(70)	県民のニーズに対応した内容により継続して実施する。
				(2) いわて親子フェスティバル ※県民活動交流センターの協力を得て実施。 ・期日・会場：平成28年10月2日(日) ・親子等 4,589名、青年ボランティア 71名、出演者・協力者 57名 ・内 容：工作教室・ショー、親子エコクッキング、体験コーナー ※ 青少年ボランティアによる企画会議(6回)及び実行委員会(3回)の開催など事業を通じた研修や交流を行った。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】1,500名 【実績】4,639名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(477千円)	5 参加者が大きく増加している。 (H27:3,524名)	A(95)	アイーナ入居団体等と連携・協働して、引き続き親子で参加できるイベントとして継続して実施したい。
	2	青少年健全育成のための地域による情報メディア対応促進事業	インターネット・スマートフォン等の正しい利用について、地域における取組実態を把握し、必要な研修講座を関係機関との連携により行うとともに、地域での周知・啓発事業の実施に結びつくモデル開発を進めることにより、地域での主体的な取組を促進し、青少年の健全育成を推進する。	(1) 情報メディア対応力養成講座(4地域) 県北地区(二戸市11/7)、県央地区(矢巾町11/9)、沿岸地区(宮古市11/21)、県南地区(奥州市11/28) 合計(4回)134名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】4地区 【実績】4地区	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(2千円)		A(90)	ニーズに対応した内容により継続して実施する。 「出前講座」の講師等を担える情報メディア対応ボランティアの育成等について関係団体と検討していきたい。
				(2) 情報メディア「出前」講座(23回) 小学校、中学校、高等学校、PTA、公民館等 延べ3,508名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】出前5回 【実績】出前23回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(0円)	5 出前回数が大きく増加している。 (H27:12回)	A(95)	
			(3) 情報メディア対応指導者養成研修会(情報メディア対応サポーター養成セミナー) 平成29年3月4日(土)・11日(土) 講話・グループワーク等	(事業実施中)						
			(4) 情報メディア対応機関連絡会議 最新のネット上の課題、相互の連携の在り方等についての協議・意見交換等 8月9日(金)合同庁舎 総合教育センター、少年センター等 6名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】1回	B(20) ①:10 ②:0 ③:10 人件費を除く費用(0円)		B(80)	相互連携の在り方等について十分な協議ができていない。	
(2) 交流	3	いわて希望塾	市町村の枠を越えた交流活動や「本格復興」についての意見交換などからの学びにより、自らと地域を見つめ直し、積極的に岩手の地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成する。	中学生を対象とし、集合研修(合宿研修)を通じ、積極性、協調性を養成するとともに、地域づくり活動に関わるプログラムを各市町村と連携して実施することにより、継続的な地域づくり活動への参画を促した。 7月30日(土)～8月1日(月)陸中海岸青少年の家(山田町) 参加者：塾生(中学生)119名・青年サポーター21名 内 容：①コース別学習(宮古市・山田町・大槌町)、②テーマ別ディスカッション「未来へのヒント部屋」、③ワークショップ・グループディスカッション、④塾長メッセージ(岩手県知事)、塾長との対話、⑤講演「私たちにできること、⑥未来への宣言(全体発表)・ふりかえり	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】塾生120名、青年サポーター20名 【実績】塾生119名、青年サポーター21名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(2,038千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 また、ボランティア養成も兼ね、引き続き県内5大学、専門学生等に対して、青年サポーターへの参加を呼び掛ける。

区分	No.	事業名	目的	事業概要(期日、参加者、内容等)	事業評価				総合評価	今後の事業方針
					必要性(30) ①必要性・優先度 ②県民のニーズ ③代替可能性	達成度(30) ①数値目標 ②満足度 ③周知・理解	効率性(30) ①費用対効果 ②計画どおりか ③負担はないか	その他(10)		
(3) 情報	4	青少年ボランティア活動の促進	いわて希望塾の青年サポーター等のセンター事業へのボランティア参加者が、事業の企画段階から参画するとともに、相互に交流する機会を設けることにより、ボランティア活動の活性化を促進する。	期日:通年 内容:いわて希望塾青年サポーター(21名)の事前打合せ、いわて親子フェスティバルのボランティア(71名)による企画会議(6回)及び実行委員会(3回)の開催など事業を通じた研修や交流を行い、ボランティア相互のネットワーク形成の機会を設定した。 参加者:県内に在住するおおむね16歳～30歳の青少年年間登録ボランティア(21名)を含め延べ388名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】 延べ388名参加	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(24千円)	5 前年度と比較し延べ人数が大きく増えている。	A(95)	継続して実施することとしたい。 募集の働きかけを強めるとともに、事業を通じた研修の実施やボランティア相互のネットワーク形成など、内容を充実させて実施することとしたい。
	5	青少年健全育成広報事業	青少年健全育成の県民運動を推進するため、県民に対する青少年健全育成の意識啓発を図る。	青少年活動交流センターにおける各種事業の実施や青少年育成活動の先進的取組み等に係る様々な情報について、広報活動を行った。 (1)一般広報事業 ① 広報紙「青少年いわて」(各号2,200部、8月、9月、12月、3月) 広報紙「アイーナインフォメーション」12回(毎月1回) ② インターネットによる広報(http://www.aiina.jp/seishounen/) アクセス数34,748件、情報発信日数:162日、ツイッターフォロワー691名、フェイスブック友達181名(平成29年2月末日現在) ③ 青少年健全育成県民運動啓発用、「いわて家庭の日」啓発用電子版「いわて家庭の日」各市町村等 12回(毎月1回) ④ 街頭広報啓発活動(1回)いわて家庭の日・相談室PRカード配布300部 ⑤「わたしの主張岩手県大会」発表文集 1,000部(配布先:市町村教育委員会、全中学校等) ⑥「いわて希望塾」事業報告書 300部(配布先:市町村教育委員会、参加中学校等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】 ホームページアクセス件数:35,000件、情報発信日数:180日 【実績(2月末日現在)】 ホームページアクセス件数:34,748件、情報発信日数:162日	B(20) ①:10 ②:0 ③:10 人件費を除く費用(287千円) ホームページの内容の充実(リニューアル)がでなかつた		B(80)	ホームページの内容を充実させ、継続して実施することとしたい。
(4) 相談	6	相談事業 (1) 青少年なやみ相談室の運営	青少年やその家族等が抱える様々な問題等の解決に資するため、青少年及びその家族等からの相談に応じるとともに、青少年活動に関する情報提供を行う。	非常勤の相談員3名により、青少年の悩み、青少年を取り巻く家族等の悩みや青少年活動に関する電話、面接及びメールによる相談を行った。 電話相談:566件、面接相談:8件、メール相談:8件 合計582件(平成29年2月末日現在) 相談時間 9:00～16:00(月・木のみ9:00～20:00)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】 相談数360件 【実績(2月末日現在)】 582件(うち同一者397件)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(0円)	同一の相談者からの相談が多い。	A(90)	継続して実施することとしたい。 引き続き、相談室の周知のため、中・高校へのPRを行うほか、保護者の需要に対応するためPTA連合会等の協力を得て保護者への周知を図る。
		(2) 青少年相談事例検討会の開催	県内の関係相談機関における相談事例の検討を行うことにより、相談関係者の指導力の向上及び相談関係機関の連携の推進を図り、青少年の健全な育成に資する。	相談員間の事例に関する情報共有及び事例検討の機会を確保するとともに、相談スキルを向上させるため、他相談機関の相談職員をも対象とした事例検討会を行った。 ○第1回 8月26日(金) アイーナ7階 701研修室 参加者:相談機関の相談関係者等22名(盛岡少年鑑別所、県警本部少年課、県福祉総合相談センター、盛岡市少年センター、岩手県国際交流協会等) ○第2回 12月22日(木) アイーナ7階 701研修室 参加者:相談機関の相談関係者等25名(盛岡少年鑑別所、県警本部少年課、県福祉総合相談センター、もりおか若者サポートステーション等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】47名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(3千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、事例検討による相談対応能力を向上させるほか、相談機関相互の連携を図ることにより相談体制の強化を図る。

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針
					必要性 (30) ①必要性・優先度 ②県民のニーズ ③代替可能性	達成度 (30) ①数値目標 ②満足度 ③周知・理解	効率性 (30) ①費用対効果 ②計画どおりか ③負担はないか	その他 (10)		
活動	7	青少年体験講座	青少年の職業観や社会性を養い、職業や社会の仕組みに関する理解を深めるため、アイーナオープン10周年を記念して青少年活動交流センターなどアイーナ入居施設の活動状況を学習する機会を提供。	アイーナオープン10周年を記念して青少年活動交流センターなどアイーナ入居施設の活動状況を学習する機会を提供するとともに、高齢者社会貢献活動サポートセンターとの共催により、高齢者との交流と体験活動を行うミニイベントを開催した。 アイーナ10周年記念「徳じいのバッテリー村移動教室」 5月8(日) アイーナ 高齢者との交流体験イベント(コマ回し体験や染物体験等)等 参加者:小学生等約200名、青年ボランティア7名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】100名 【実績】200名	B(20) ①:10 ②:0 ③:10 人件費を除く費用 (16千円)		B(80)	県民のニーズに対応した内容により実施する。
	8	社会生活に困難を有する子ども・若者支援に関する公開講座	社会生活を営む上での困難を有する青少年の現状や支援方法について、専門家による基調講演や関係団体代表等による事例検討会などを内容とする公開講座を開催し、今後における「子ども・若者支援」の推進に係る機運の醸成と県民への啓蒙を図る。	現代の大きな社会的課題である不登校・ひきこもり・ニート等の社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者への支援について、保護者や教育関係者、支援機関関係者等を対象として公開講座を開催した。 ○第1回 11月25日(金)アイーナ 参加者:24名 子ども・若者がかかえる困難と社会的状況 ～子どもたちのSOSを私たちはどう受け止めるか～ 県立大学社会福祉学部 教授 田中 尚氏 ○第2回 12月15日(木)アイーナ 参加者:26名 事例から見るステージごとの課題とポイント① (回復までのストーリー) (社福)わたげ福祉会(仙台市) 代表 秋田 敦子氏 ○第3回 1月26日(木)アイーナ 参加者:33名 事例から見るステージごとの課題とポイント② (本人・家族それぞれの回復のストーリー) 同 上 ○第4回 2月21日(火)アイーナ 参加者:35名 切れない漏らさない支援でエンパワメントを図る-すべての子どもと若者が支えられながら自ら歩めるために- 静岡大学人文社会科学部 教授 荻野 達史氏	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	C(10) ①:0 ②:10 ③:0 【目標値】180名 【実績】118名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用 (171千円)		C(70)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、機関相互の連携の強化を図る。
交流	9	国際理解・協力推進事業(国際交流シンポジウム)	国際的視野と国際協調の精神を身につけた青少年を育成する。	県内に在住の外国青年を講師として招き、調理を通じて各国の文化や食習慣などを学び合う交流会を開催する。 平成29年3月5日(日) アイーナ ※岩手県青年国際交流機構と共催 内容:テーマ「ネパールってどんな国?～盛岡在住のネパール人学生が語るリアルを紹介～ ネパールの紹介、トークセッション、茶話会・自由交流 参加者:28名 (講師:県内在住の外国人 2人)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	C(10) ①:0 ②:10 ③:0 【目標値】30名 【実績】28名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用 (0円)		C(70)	継続して実施することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。
	10	災害復興支援事業 復興バザー	東日本大震災の被災者支援及び県民とアイーナの絆づくりを行う。	ボランティアの参加(売り子等)を得て、アイーナ入居の各センター連携事業として実施した。 内容:アイーナ4階県民プラザにおいて、アイーナブース(アイーナ職員供出物品の販売)を設置、個人・福祉施設出店、被災地からの出店販売 第13回 平成28年6月18日(土)参加者約500名(売上金額 101,390円) 第14回 平成28年10月2日(日)参加者約500名(売上金額 73,286円) ※ なお、バザーの売上金174,676円は、その全額を岩手県災害義援金募集委員会、日本赤十字社に寄附した。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用 (0円)	0	A(90)	継続して実施することとしたい。 売上金額が減少していることから、周知をさらに図る。
情報	11	青少年関係情報データベース事業	青少年に関わる情報について、様々なデータや各種資料等を一括して収集、整理・分類等を行い、ホームページ上にデータベースを構築して、青少年の育成支援に関する情報の総合的な提供を行う	青少年に関わる情報について、県や市町村、青少年関係団体等が常に最新の情報を共有し、相互に連携の執れた事業展開がなされるよう、健全育成、保健福祉、教育、非行防止等の各部門がそれぞれ独自に保有する様々なデータや各種資料等を一括して収集、整理・分類等を行い、ホームページ上にデータベースを構築して、青少年の育成支援に関する情報の総合的な提供した。	(事業実施中)					継続して実施することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。